春岡村の伝説

●丸ヶ崎新田の薬師堂敷地内の「庚申塔」

ギャラリー喫茶「温々」の並びにある薬師堂。ここにある大きな一本桜は毎年見事に咲き誇り、通勤のバスからもその姿を見ることができます。境内にはまた、寅子伝説の子鱠社とともに様々な石仏が並んでいます。その中から元禄二年（一六八九）建立の「庚申塔」をご紹介しましょう。

江戸時代、日本では「庚申待ち」という民間信仰が大流行しました。これは六十日ごとに巡ってくる庚申（こうしん、かのえさる）の日、私たちの体の中に棲むとされる三匹の虫「三尸虫」（さんしちゅう）が宿主の眠っている間に体から抜け出して、宿主の罪を天帝に告げ口をします。報告を受けた天帝がその人の寿命を縮めるので、長生きしたい人々は、村のお堂やその年の当番の家に集まり、飲み食いしながら徹夜をして、三尸虫が体から出ていけないようにしたのです。（出ていけなければ告げ口もできないからね）そして、三年無事であれば「青面金剛」（しょうめんこんごう：インドの土俗神）とその使いである「三猿」を彫った庚申塔をみんなで建立したのです。

それにしても、元禄二年と言えば、円空がこの地にやってきて子鱠社や宝積寺に円空仏を遺していった年でもあります。村に何があったのでしょう。

■舟形光背　■日月雲　■梵字（青面金剛の意）

■青面金剛　合掌型六臂（がっしょうがたろっぴ）

「庚申待ち」の本尊。怒りの形相をした青い顔と赤い目、怒髪天、六本または四本の手に悪い鬼と戦うための矛（ほこ）盾（たて）弓矢などの武器を持ち、「ショケラ」の髪をつかんでいる。ショケラは上半身が裸の女人で「三尸虫」をあらわしています。

■邪　鬼

人にとりつく悪い鬼。青面金剛に踏みつけられ悪さができない。

■雌鶏・雄鶏

日の出を知らせる象徴。これは庚申の夜が早く明けることを願う人々の気持ちを表しているとか、庚申待ちのときは翌日の辛酉（かのととり）の日となるまで寝ずに起きていることを意味しているともいわれています。

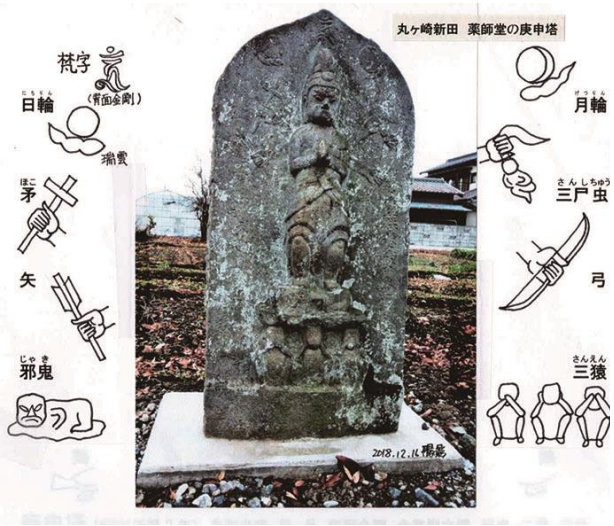
■三　猿

両手で目・耳・口をおおっているのは三尸虫に自分が犯した悪さを「見ないでほしい」「聞かないでほしい」「言わないでほしい」という人々の願いをあらわしています。

■右の彫り　元禄二己巳（つちのとみ）天七月吉日

■左の彫り　丸ヶ崎村金子惣兵衛（外十一名）施主等　敬白

■三猿の下の彫り　奉造立供養庚申為二世安楽



（参照『郷土大砂土のあゆみ』大島豊／『丸ヶ崎の歴史と民俗』金井塚隆治／『郷土の石佛』酒井正）

（平山由喜）